

平成30年8月10日発行

=====

東海生研 ～ メールマガジン 第164号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

=====

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
- ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー
- ☆ NPO 法人東海生研の行事予定
- (第3回セミナー、アグリビジネス創出フェア2018 in 東海)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆平成30年度東海農政局「食品安全セミナー(8月)」 (8月26日)
- ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会8月研究会 (8月23日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
- ☆第2期SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)
- 『スマートバイオ産業・農業基盤技術』の公募について
- (農研機構・生研支援センター)
- ☆平成30年度企業主導フェーズ:NexTEP-Aタイプ (JST)
- ☆平成30年度産学共同実用化開発事業NexTEP (JST)
- 未来創造ベンチャータイプ
- ☆平成30年度産学共同実用化開発事業NexTEP一般タイプ (JST)
- ☆平成30年度研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)機能検証フェーズ
- 試験研究タイプ(第2回公募) (JST)
- ☆平成30年度研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)機能検証フェーズ
- 実証研究タイプ (JST)
- ☆平成30年度研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャー
- ーに対する事業化支援(第2回公募) (NEDO)
- ☆平成30年度戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE) (総務省)
- ICT研究者育成型研究開発(若手研究者枠)
- ☆平成30年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!) (総務省)
- ☆NEDO TCP(Technology Commercialization Program)2018 (NEDO)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆ 1 ◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー

【開催日時】平成30年9月4日(火) 13時30分～17時

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター) 1208&1209会議室

【講演】

第1会場(1208会議室)

○水産部会 13:30～14:30

「愛知県のアサリ漁業と減耗要因の検討」

愛知県水産試験場漁業生産研究所 主任研究員 松村貴晴 氏

○作物部会 14:30～15:30

「自家受粉が可能なニホンナシ新品種『なるみ』等のナシ品種育成の現状」

農研機構 果樹茶業研究部門 品種育成・病虫害研究領域 上席研究員 齋藤寿広 氏

○畜産部会 15:40～16:40

「肉牛生産における SPAY(卵巣摘出術)のメリットと活用事例」

モーモークリニック 大久保幸弘 氏

第2会場(1209会議室)

○林産部会 13:30～14:30

「薬用植物由来ポリフェノールと生物活性」

岐阜大学応用生物科学部 助教 山内恒生 氏

○食品部会 14:30～15:30

「果実(柿等の規格外品)のペクチンを利用した介護用食品・機能性表示食品の開発」

岐阜大学応用生物科学部 教授 矢部富雄 氏

【技術相談】案件の受付をさせていただきます、後日、対応させていただきます。

【参加】無料、事前申し込み

【情報交流会】参加費有り(2500円)、事前申し込み

1209会議室で17時から18時30分

.....

☆東海生研行事予定

○第3回セミナー(予定)

【開催日時】平成30年10月31日(水)13:30～17:00

【開催場所】ウインクあいち

【テーマ】「新たな農業技術の展開 ～植物工場とICT & IoT技術～」

【内容】

挨拶

セッション1 農業現場におけるICT & IoT技術の展開

(1)振興政策について

- (2)トヨタ自動車(株)の「豊作計画」
- (3)(株)クボタのトラクター等搭載 IoT 技術

セッション2 植物工場拠点の展開

- (1)太陽光利用型植物工場で得られた研究成果と今後の課題
- (2)人工光型植物工場で得られた研究成果と今後の課題

【参加費】 無料

【交流会】 17:10～ 会場：セミナー会場と同じ 参加費：2,500 円

○アグリビジネス創出フェア 2018 in 東海

【開催日時】 平成 31 年 1 月 29 日～ 30 日

【開催場所】 ウィンクあいち

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成 30 年度「食品安全セミナー(8月)」

(東海農政局)

○8月26日(日) 13時30分～15時40分

【場所】 東海農政局 1 階 第 1 会議室 (名古屋市中区三の丸 1-2-2)

【主催】 東海農政局

【申込期限】 8 月 23 日 17 時まで

【開催案内 (プレスリリース)】 <http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/180724.html>

第一部 「食品安全と行政の取組」

東海農政局 消費・安全部 消費生活課 職員

第二部 「健康食品やサプリメントとの上手なつきあい方」

公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

消費生活アドバイザー 長谷川千鶴 氏

【参加】 参加費無料、定員 40 名になり次第締め切られます。

【参加申込】 上記 URL から FAX 又はインターネットでお申込み下さい。

【お問い合わせ】 消費・安全部消費生活課 担当者：森 (啓)、奥川、青木様

代表：052-201-7271(内線 2810)

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX：052-220-1362

申込方法、参加申込書、会場案内図、お問い合わせ先は、上記の開催案内の URL をご覧ください。

☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 8 月研究会

【開催日時】 平成 30 年 8 月 23 日(木) 午後 2 時から 5 時

【開催場所】 名古屋市民活動推進センター 研修室

名古屋市中区栄三丁目 18 番 1 号

ナディアパーク・国際デザインセンタービル 6階 (052-228-8039)

【講演】

14時～15時20分

- ・「小規模適応型の産廃物・排水汚泥・廃油の削減の新技术」

フレスコ株式会社 代表取締役 江藤啓介 氏

15時30分～17時

- ・「食品リサイクルループは命をつなぐ環」

ユニー株式会社業務本部 CRS 部 シニアチーフマネージャー 松井 淳氏  
(愛知環境賞・優秀賞受賞)

HP : [http://aichikankyoushou.jp/files/00009706/2018\\_15\\_yusyu\\_uny.pdf](http://aichikankyoushou.jp/files/00009706/2018_15_yusyu_uny.pdf)

【会費】 会員 無料 会員以外 1,000円 (学生 500円)

【懇親会費】 講師を囲んでの交流会を予定しています。(自由参加)

会費 3,000円 場所：中国料理シルクロード上前津店

(名古屋市中区大須4-11-61 TEL:052-265-4888)

【参加申込み】 当日会場にてお申込み下さい。

◆3◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○アグリビジネス創出フェア2018

【開催日時】 平成30年11月20日(火)～22日(木) 10:00～17:00

【開催場所】 東京ビッグサイト(東京国際展示場)(東京都江東区有明3-11-1)

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記URLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆4◆ 平成30年度競争的研究資金等について

【研究開発関連】

☆第2期 SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)(農研機構・生研支援センター)  
「スマートバイオ産業・農業基盤技術」の公募について

平成29年度補正予算で措置された第2期 SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)

のうち、対象課題「スマートバイオ産業・農業基盤技術」の公募が開始されました。本課題は、世界的なバイオエコノミーの拡大、競争の激化が予想される中、バイオとデジタルの融合、多様で膨大なデータの利活用により、農林水産業等の生産性革命・競争力の強化、食による健康増進社会の実現、生物機能を活用したものづくりによる持続可能な成長社会の実現を目指すものです。

公募は本課題の管理法人である国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター(略して「生研支援センター」という。)が実施しています。

分野等：

1. 健康寿命の延伸を図る「食」を通じた新たな健康システムの確立
2. 多様なデータの利活用による農林水産業・食品産業の生産性革命・競争力の強化
3. 「生物機能を活用したものづくり」による持続可能な成長社会の実現
4. バイオ・デジタル融合イノベーションを創出する研究開発基礎の構築

概要説明：<http://www.naro.affrc.go.jp/brain/sip/news/2018/082029.html>

公募要領：[www.naro.affrc.go.jp/brain/sip/files/sip2\\_kouboyoryo.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/brain/sip/files/sip2_kouboyoryo.pdf)

公募期間：平成30年7月25日（水曜日）～8月27日（月曜日）

.....  
☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP） (JST)

平成30年度 企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

.....  
☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

.....  
☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

.....  
☆平成30年度 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) 機能検証フェーズ (JST)  
試験研究タイプ (第2回公募)

<http://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

分野等：企業等の開発ニーズに基づき、技術移転の可能性が見込まれる大学等が保有する研究成果、知的財産の活用のための試験研究を支援する。

公募期間：平成30年7月11日～9月11日

.....  
☆平成30年度 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) 機能検証フェーズ (JST)  
実証研究タイプ

<http://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

分野等：企業等の開発ニーズに基づき、技術移転の可能性が見込まれる大学等が保有する研究成果、知的財産の活用のための実証研究を支援する。

公募期間：平成30年7月11日～9月11日

.....  
☆平成30年度研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する  
事業化支援 (第2回公募) (NEDO)

[http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100188.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100188.html)

分野等：ベンチャーエコシステムにおいて重要な役割を果たすベンチャーキャピタル及びシードアクセラレータ等とNEDOが協調し、シード期の研究開発型ベンチャーが必要とする研究開発及び事業化に必要な資金、並びにその活動を支援する。

公募期間：平成30年7月12日～8月31日

.....  
☆平成30年度戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE) (総務省)  
ICT研究者育成型研究開発 (若手研究者枠)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000249.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000249.html)

分野等：新たな価値の創造や社会システムの変革に寄与する、以下の1～7のICTの研究開発分野 (分類の融合領域や分類横断的な研究開発を含む) を対象とする。

1. センシング&データ取得基盤分野
2. 統合ICT基盤分野
3. データ利活用基盤分野
4. 情報セキュリティ分野
5. 耐災害ICT基盤分野
6. フロンティア研究分野
7. IoT/BD/AI技術の研究開発分野

公募期間：平成30年7月11日～10月12日

.....

☆平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000239.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html)

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合 (ICT×○○) を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept：概念検証) に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成30年4月12日～平成31年3月29日

.....

【研究開発関連以外】

☆NEDO TCP (Technology Commercialization Program) 2018 (NEDO)

[http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100185.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100185.html)

分野等：NEDO Technology Commercialization Programは、技術を基に起業して事業を大きく拡大させたいと考えている起業家、起業家予備群、起業意識のある研究者等を支援するためのプログラムであり、以下1～3の機会を提供する。

1. 技術シーズの事業化に必要な知識を提供する研修の実施
2. 専門家によるビジネスプランの作成支援・メンタリング
3. ビジネスに結び付けるための大企業・ベンチャーキャピタル等へのビジネスプラン発表、ネットワーキング、マッチング

公募期間：平成30年6月8日～9月14日

.....

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください (下記の URL の後半)。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆園芸 (果樹) 関係

○弱熱耐性果樹の白紋羽病温水治療を達成する体系化技術の開発

果樹の白紋羽病防除については、50℃の温水を罹病果樹の周辺に点滴する技術が、ナシ、リンゴ、ブドウにおいて実用化されています。しかし、熱に弱いビワ、サクランボ、モモでは上記の技術は使えません。そこで、より低温の45℃の低温水処理と、市販の微生物資材 (トリコデルマ属糸状菌を含む) による土壌の白紋羽病抑止効果とを合わせて防除するという技術が開発されました。本研究成果は、農研機構を代表機関とする共同研究グループが農食研究推進事業を実施し得られました。

・農林水産技術会議事務局 平成27年度 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業  
実用技術開発ステージ：

「弱熱耐性果樹の白紋羽病温水治療を達成する体系化技術の開発／研究計画」

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/27009c\\_gaiyou.pdf](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/27009c_gaiyou.pdf)

- ・長崎県農業技術開発センター成果情報：

「45℃温水点滴処理によるビワ白紋羽病の治療技術」

<http://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/theme/result/H29seika-jouhou/fukyu/F-29-07.pdf>

- ・農林水産技術会議「研究紹介」：「温水を周辺土壌に点滴処理することにより白紋羽病にかかった果樹（ナシ、リンゴ、ブドウ）を治療する環境負荷低減型の防除技術」

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/shiromonpa.pdf>

- ・農研機構：白紋羽病 温水治療マニュアル 改訂版

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/010793.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/010793.html)

#### ☆茶関係

- 抹茶や粉末茶に適した緑茶用新品種「せいめい」

最近、抹茶の生産量は増加しており、今後も、国内需要と輸出の増加が見込まれています。被覆栽培で収量が多く、粉末の色合いに優れ、関東以南の生産地域に適した新品種「せいめい」が農研機構果樹茶業研究部門で開発されました。更新時期となった「やぶきた」の植替え品種として推奨されます。

- ・農林水産省 最新農業技術・品種 2018：

「抹茶や粉末茶に適した緑茶用新品種『せいめい』」

[http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new\\_tech\\_cultivar/pdf/2018kobetuseika/2018\\_18.pdf](http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/pdf/2018kobetuseika/2018_18.pdf)

#### ☆水産関係

- カイヤドリウミグモの寄生被害を回避軽減するためのアサリ放流手法の開発

最近の三河湾、伊勢湾ではアサリの急激な減少により、潮干狩りの中止など影響が広がっています。この現象は、東京湾（千葉県など）などで、東海地域に先立って発生しました。千葉県水産総合研究センターが中核機関となる農食研究推進事業の中で、アサリ減少の原因の1つとして、カイヤドリウミグモ（節足動物）の寄生による被害が重要であるとの認識から、カイヤドリウミグモの幼生を鋭敏かつ簡便に検出する手法を開発し、この手法を用いて発生時期及び発生場所を特定し、本種の発生の少ない時期及び場所にアサリの種苗を放流することによって被害を軽減する、いわゆる「被害回避法」を明らかにしました。三河湾におけるカイヤドリウミグモの発生時期については、村内ら（2014）が明らかにしており、被害回避地策への応用が期待されます。

- ・農林水産技術会議事務局 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 研究紹介 2013, 研究紹介 8, 165~166 頁：「カイヤドリウミグモの寄生被害を回避軽減するためのアサリ放流生産手法の開発」

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/kankoubutu/fundresults2018.htm>

- ・農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター・Agriknowledge：



「カイヤドリウミグモの生態解明とアサリの新たな生産対策」

<https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/3010027068>

・ J-STAGE (JST) : 村内ら (2014) 知多半島東岸におけるカイヤドリウミグモの生活年周期とアサリへの寄生動態に及ぼす水温の影響. 水産増殖 62(2) : 183-190.

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/aquaculturesci/62/2/62\\_183/pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/aquaculturesci/62/2/62_183/pdf)

編集後記

夏真っ盛りの8月です。台風12号は、いつもとは逆の異例のコースをたどり東から西へ進みました。西日本豪雨の後、日本各地で記録的な猛暑に見舞われています。また、日本だけではなく、世界各地が猛烈な暑さに襲われているようで、北欧やシベリアでは熱波による暑さで森林火災が発生し、カナダのケベック州やギリシャでは森林火災で死者も出ているとのことです。世界的な異常気象が起きる頻度が上昇していると指摘され、猛暑の原因対策への世界全体の本気度が試されます。

本屋さんで、「クルマがスマホ化する・・・」の本帯を見て、井上久男著「自動車会社が消える日」(文春新書)を読みました。

巨大な自動車産業では、大きなパラダイムシフト・・・クルマのスマホ化とロボット化・・・が進んでいて、独立して存在しているクルマが外部ネットワークとつながり、さらに、クルマと人工知能の融合によって、無人で完全自動運転のクルマが登場するであろうと、著者は述べています。

著者の問題意識は、IT企業などの新規参入や、消費者の価値観の変化、そしてクルマの様々な新しい技術やサービスが生まれることで、伝統的な自動車メーカーは変化に対応できず、また消費者の心を掴めないと危惧されることです。

本書ではこんな記述が出てきます。ダーウインの進化論が説くように、餌をとる環境に合わせて、くちばしの形を適応させていった鳥にならなければならない。環境の変化に対応できずに絶滅した恐竜になるのか、それとも適応した鳥になるのか。「未知の敵」との競争では、環境の変化に合わせていけるかに勝敗がかかっている。

自動車産業では、誕生して以来のパラダイムシフトが始まっており、日本の自動車企業にとって、VWの戦略は最適のベンチマークであろうと書かれています。VWの大改革と環境規制への対応強化、クルマの電動化、そしてモビリティサービスのプラットフォーム化が述べられおり、ドイツのクルマ造りが産学連携によって、企業の真のニーズが大学に伝わり、最新の技術・研究情報が企業側に流れ、人と知見のスムーズな流通が生まれると指摘されています。

著者は農業や加工食品も、海外市場では「安全・安心」を示すエビデンスが求められ、国際的なルールへの合致が重要であると論じています。大いに参考にしたいと思いました。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>